

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「ふるさと子どもカレッジ事業」(宮城県石巻市)

取組の概要や経緯

地域の企業等の協力のもと、石巻の自然・文化・歴史を活かした体験活動を取り入れた講座を開設することにより、子どもたちの豊かな心を育み、自らの故郷について知り、学ぶ機会を創出する事業。

ポイント

- ✓ 地域の学習力を生かした体験活動 **(地域産業の担い手などを講師とする)**
- ✓ 通学区以外の同年代の仲間との交流 **(参加者は市内学校に通う小学5・6年生)**
- ✓ カレッジでしか行けない場所へ行ける **(参加者規模・移動手段などの要因)**

成果

- 包括連携協定を活用し、民間企業の知識や人脈を生かした事業に取り組んだりすることにより、多種多様な体験を提供できた。
- 地元企業の「お仕事見学・体験」をとおして、自分たちの住む地域にどんな企業(や人)がある(いる)のか知ることができる。また、地域の魅力を再発見し、将来の夢や地元就職を考えるきっかけづくりとなった。

今後の方向性

- 地元大学やNPO団体等と連携し、より多種多様な体験を提供していく。
- 事業認知度向上のため、市内の4・5年生全児童へアンケートを行う。また、市報や学校へのおたよりなどにより、活動内容を周知していく。これにより、さらに多くの子どもたちに体験の機会を提供していく。

内容

企画名	地区
① ジュニア・リーダー交流会 ニュースポーツ体験	河南
② 「Yomokka!」を活用したPOP作り	石巻
③ 砂州クリーン活動 月浜沢川の生き物観察	北上
④ 石巻青果花き地方卸売市場の見学	赤井
⑤ オランダ式次世代施設農園の見学 収穫体験	北上
⑥ 石ノ森萬画館見学、街歩き	石巻
⑦ おしかホールランド見学	牡鹿



「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「子ども読書活動推進事業」(宮城県石巻市)

取組の概要や経緯

ブックスタート事業として、3・4か月健診時に乳児とその保護者を対象に、ボランティアによる読み聞かせとブックスタートパックの配布を実施している。
読み聞かせボランティア等を対象に、年3回の研修会を開催している。



内容

ブックスタート事業……健診時に絵本2冊、アドバイスブック、図書館からのお知らせ等を布製バックに入れたブックスタートパックを配布し、ボランティアによる読み聞かせを実施した。

研修会……石巻市子ども読書推進研修会(9月)、ブックスタートボランティア研修会(10月)、読み聞かせボランティア研修会(3月)の3回を開催した。



ポイント

- ①……ブックスタート事業は市内に生まれたすべての乳児、その保護者を対象としている。
- ②……市内には読み聞かせボランティアが約200名おり、小学校、図書館等でも活躍している

成果

・ブックスタート事業……令和6年度は約550セットのブックスタートパックを配布した。配布時のアンケートでは100%の保護者が「ブックスタートにより、子どもへの読み聞かせに繋がる」と好意的に回答した。

・研修会……石巻市子ども読書推進研修会には28名、ブックスタートボランティア研修会には9名、読み聞かせボランティア研修会には39名、計76名が参加した。

今後の方向性

・ブックスタート事業……今後もボランティア参加人数を制限する等、感染症対策を取りながら読み聞かせ、ブックスタートパックの配布を実施する。

・研修会……年3回の開催を続け、ボランティアの養成、知識・技術の習得を図る。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「子どもたちが共に学び合う地域活動」 (宮城県白石市)

取組の概要や経緯

学校の授業では体験出来ない自然の家を活用した体験学習、学校や学年を超えた幅広い交流、収穫から調理までを一貫した食育体験などを通じて青少年の健全育成を図るとともに、子どもたちの自主性や創造性、集団における協調性を養うことを目的としている。



内容

小学校5・6年生を対象とした事業「わんぱく教室」を実施している。例年、キャンプでの宿泊体験や野外炊飯、食育体験、その他体験活動を計画し、通年に渡り事業を実施。なお、白石市ジュニア・リーダー「キャロル」が指導者として小学生の指導にあたることによって、将来のジュニア・リーダーの育成、子どもの青少年健全育成を図れるような活動を展開している。

ポイント

- ①小学生にとって、学校や学年を超えた交流を図る機会を創造した。
- ②ジュニア・リーダーは地域の子どもたちを引っ張る存在として、公民館事業や市イベントなど、地域活動に積極的に参加した。



成果

- ・地域資源を活用し、**地域への愛着、郷土愛を育む一助となり**、様々な世代との交流をすることができた。また、小学生で他校児童と交流することで中学校生活へのスムーズな移行の一助となっている。
- ・ジュニア・リーダーの人数減少、活動意欲の低下が課題として挙げられているが、**今後も活動が継続できるように自分たちができることを協議しながら**、工夫して活動を実施している。



今後の方向性

- ・より地域の自然や伝統文化に触れる機会を増やし、シビックプライドの醸成を図りつつ、将来の担い手を育成できるように、子どもたちを中心に、地域住民が地域を見つめなおす機会を提供し、事業を進めたい。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動(地域活動)の取組事例

「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」(宮城県多賀城市)

取組の概要や経緯

【地域活動(地域力向上事業)】

災害時に主体的に対応しようとする青少年の育成及び地域防災力の基盤となるコミュニティの醸成を通して地域教育力の向上を図る。

内容

・市内公民館等の協力を得て、防災キャンプ等を実施し、幅広い年代層(中高生や大学生を含め)の地域住民等との体験活動とおして、災害時に主体的に対応しようとする青少年の育成及び地域防災力の基盤となるコミュニティの醸成を図る。

ポイント

- ・児童を対象とした宿泊を伴う防災キャンプを実施し、非常食による調理実習や宿泊等の幅広い体験活動を行う。
- ・高校生や中学生がグループのまとめ役として児童と一緒に体験活動を行い、地域の次代を担う人材育成へとつなげる。
- ・地域活動の拠点である公民館で実施するとともに、地元企業や防犯対策協議会の協力を得ることで、災害時や非常時に体験活動で得た知識やスキルを発揮できるようにする。

成果

・児童に幅広い体験活動を提供するとともに、中学生、高校生、大学生、地域住民、地元企業等幅広い立場や年齢層の方々の参画による多様な交流活動によりコミュニティの醸成を図ることができた。また、以前に参加した児童が中学生、高校生になり、支援する側で参加し、学びの循環が創出され、地域教育力の向上につながった。

今後の方向性

・防災をテーマに地域住民等の協力を得ながら事業を継続的に取り組むことが、次代を担う人材の育成へとつながっていくと考える。今後は、より多くの児童生徒が参加できるように周知方法を工夫するとともに、多様な交流活動ができるように、地元企業や団体のネットワークを広げていく。



サバ飯づくり体験



中学生と防災バッグづくり



高校生と避難所開設体験

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「加美町地域未来塾事業」(宮城県加美町)

取組の概要や経緯

学校の授業以外で学習を行う機会がない児童生徒が多く、学校以外で学習を行うことに対する指導等が、学校・家庭の共通の課題となっている。そこで、自主学習の定着や学習機会の確保等を目的として「夏の寺子屋」及び「放課後寺子屋」を実施している。そのほか、地域人材を活用し、地域及び外国の自然環境や歴史・文化を学ぶ「ふるさと寺子屋」を実施し、児童生徒の興味関心の幅を広げ、自主的・自発的な学びを醸成している。

内容

1. 「ふるさと寺子屋」
 - A. 町学芸員による加美町の自然環境や歴史・文化に関する出前授業を、町内小学校6年生を対象に実施。
 - B. ドイツ出身の加美町SEAによる国際理解教育に関する出前授業を実施。
2. 「夏の寺子屋」

夏季休業中の7月29日～8月3日のうち6日間、小学校や公民館を会場に町内小中学生に対して協働教育リーダー及び地域の大人や学生等ボランティアの協働教育サポーターが学習支援を行った。午前の部と午後の部で各2時間実施した。また、体験学習として令和6年度はドローンサッカー体験、どこでもEnglish!、守り神土偶をつくろう・コマ撮りアニメを作ろう、食の旅～ラーメンと歩む～、お金の流れを学ぼう!を実施した。
3. 「放課後寺子屋」

中学生を対象に、10月～2月に週1回放課後2時間、協働教育リーダーや協働教育サポーターが学習支援を行った。

ポイント

- ①「ふるさと寺子屋」…A. 5月～7月に町内小学校全8校で実施。
B. 5月～7月に希望があった町内小学校5校で全5回実施。
- ②「夏の寺子屋」…小学生97名、中学生78名が参加。リーダー・サポーター69名で指導。
- ③「放課後寺子屋」…中学生のべ659名が参加。リーダー・サポーター6名で指導。32回実施。

成果

- ・ふるさと寺子屋…町の歴史や文化、外国の地理や文化に触れることにより、対象児童生徒の興味関心の幅が広がった。
- ・夏の寺子屋…令和6年度は体験学習の項目を増やしたことにより、興味・関心を持っていたき、参加者が増えた。
- ・放課後寺子屋…1、2年生の参加者が少なかったことから例年より参加者が減ったが、粘り強く学習に取り組み、苦手克服につなげることができた。



今後の方向性

- ・学校や参加者から継続してほしいという要望があるため、令和7年度も内容や実施回数を検討しながら実施する。
- ・参加者が増えるよう、魅力的な事業内容を検討していく。
- ・近隣の高校と連携し、協働教育リーダーや協働教育サポーターの確保に引き続き取り組んでいく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「元気わくやふれあい町づくり事業」及び「地域未来塾(パワーアップ教室)」(宮城県涌谷町)

取組の概要や経緯

【地域未来塾】

学び支援コーディネーター及び学び支援相談員又は補助員を各学習施設に配置し、児童生徒への支援経験のある地域住民が参画することを通して、教育活動の充実と学びを核とした地域コミュニティのさらなる構築を図る。

内容

【地域未来塾】

町内の児童(小学校3～6年)及び生徒(中学校1～3年)を対象に、夏季休業中5日、冬季休業中2日の計7日間、4会場(小学校3校、中学校1校)で実施。学習指導だけでなく、学習習慣の定着を目指し、学習の取り組み方や時間配分について助言するようにした。

ポイント

【地域未来塾】

統括コーディネーターは各会場を回り、児童生徒の様子がよくわかっている学習支援員との連携が図られ、どの地域も一体となった学習支援が受けられる。

成果

【地域未来塾】

今年度から会場を各学校に設定することにより、通常時と変わらない環境で学習する機会を設けられ、多くの参加者数を得られた。

また、宿題に積極的に取り組むことができ、学習習慣の定着を図ることによって長期休業中の学習時間の増加や、学校以外で平日学習に取り組む児童生徒が、昨年同様、増加傾向であるとの成果が得られた。



今後の方向性

【地域未来塾】

長期休業中も学習習慣の継続及び家庭における自主学習の定着を目的に、児童生徒個々が主体的に学習に取り組む場と時間を提供してきた。

今後もこの事業を通じて、継続的に学習に取り組む児童生徒を増やすことを目標に、長期休業中の取組において、学習支援員の支援により、落ち着いた学習空間の確保と学習に集中できる時間を提供していきたい。

また、引き続き、次年度も児童生徒の学習の普及促進及び定着化を図っていきたい。